



みどりの子

令和8年5月号

所沢市立荒幡小学校

校長 小林 雅行

自然を言葉に変え表現できる子

風薫る5月、若葉のかおりが風に乗れり、心地よい季節となりました。今年のゴールデンウィークは飛び石ではありますが、うまく休暇がとれれば長期にわたる休みとなります。子供たちにとっては、4月からの新しい生活の疲れをリフレッシュする、ちょうどよい機会となるはずで、ところで、日本には季節を表す言葉が多数あります。その中でも「五月」の言葉がつく言葉を探してみるとその数は他の月に比べて多いようです。

五月晴れ(さつきばれ) と 五月雨(さみだれ)

五月晴れの意味は広辞苑によると「さみだれの晴れ間、梅雨の晴れ間」、「五月の空の晴れわたること。また、晴れわたった空」とあります。この「五月雨(さみだれ)」とは陰暦五月頃に降る長雨また、その時期。つゆ。梅雨。さつきあめのことです。つまり「五月晴」の本来の意味は、梅雨の長雨にみられる晴れ間の事なのです。

この言葉が使われ始めた頃の日本では、旧暦(太陰太陽暦)を使用していましたが1873(明治6)年に今の新暦(太陽暦)に変わりました。旧暦の5月は、5月30日から6月28日にあたります。つまり、旧暦と新暦では約一ヶ月ずれがあるのです。しかし、違う月にもかかわらず、呼び方だけが残し、今では五月(さつき)だから5月の言葉として使われているということになります。このことを知ったうえで「**五月雨をあつめて早し最上川**」という松尾芭蕉の有名な句を改めて詠んでみると、今の「5月の雨」ではなく旧暦の5月、つまり新暦に言うとも6月頃にあたる梅雨の長雨が最上川にそそいでたくさんの水が勢いよく流れている。という事を詠んだ句であるということを実感していただけるのではないのでしょうか。

五月蠅

「うるさい」という形容詞は、五月の蠅(ハエ)という漢字があてられています。なぜ、五月の蠅なのでしょう。現代の感覚でいうと5月には蠅の姿を見ることはあまりありません。5月というより6月頃から始まる梅雨の季節になると次第に蠅の姿を見かけるようになります。どうやらこの言葉も旧暦が関係しているようです。平安時代の詩人 清少納言も蠅については、かわいげのないものと述べており、蠅は「さわがしい」「うるさい」ものの代表としてとらえられていたようです。平安時代の5月は現在の6月頃であり、「五月蠅い」という言葉は旧暦の使われていた古代だからこその言い方であり、その言葉が現代も残っていて、「五月蠅い」と漢字があてられているのではないのでしょうか。

今年の5月は、古くから伝わる日本語から、季節を感じ取ってみるのはいかかでしょうか。そしてお子様に、「移ろいゆく自然、日本の習わし等」を話し、可能な限り自ら触れて感じさせ、豊かな感性を育てて欲しいと思います。自然を言葉に変え表現できる子は感性が豊かであり、大きく伸びる可能性を秘めています。子供は、親の見方・感じ方・考え方・行動の仕方等を真似し、毎日毎日、親の後ろ姿を見て育っていきます。躰とは、人間の在り方、生き方、動き方を美しくすることです。そう考えると、親としての在り方や人生観がどうあるべきか、おのずと見えてくるのではないのでしょうか。